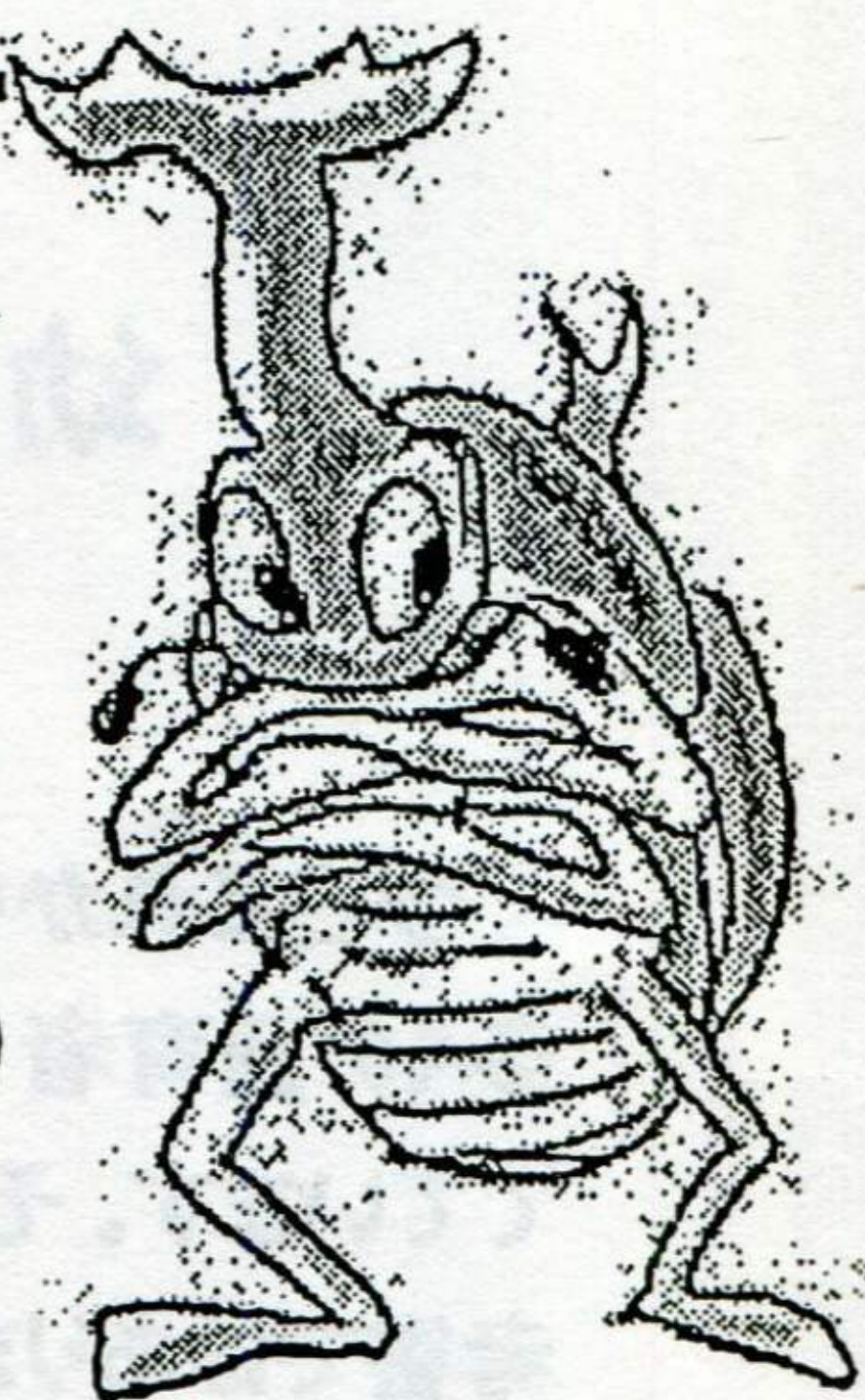


1. カブトムシの育て方

カブトムシ

☆よいするもの

- ★プラスチックケース(できるだけ大きいもの)
外で飼うときは植木鉢でもよい(水が抜けていくもの)
- ★カブトムシ飼育マット(エサになります)
園芸腐葉土は肥料の入っていないものを
- ★きりふき・大きいスプーン・ふるい(台所でいらないもの)



☆おきばしよ

- ★ケースに飼育マットとコップ2~3杯の水を入れてよく混ぜてください。じゅうぶんマットを湿らせてください。
- ★家の中ならあまり熱すぎたり寒すぎないところにおいてください。
- ★幼虫はできるだけスプーンなどですくうようにしてください。
- ★フタの上にはできるだけものを置かないでください。

☆ときどきは...

- ★乾いていないかよく見てください。
乾いていたらきりふきで湿らせます。
- ★黒い丸いもの(フン)が増えてきたら、ふるいなどで取り除いてください。
マットが減った分、新しいものを足してください。



☆5月頃になったら...

- ★羽化の準備が始まります。
- ★マットの下に2~3センチほど土をいれます。これもよく湿らせます。
幼虫はマットと土の境に蛹になるための場所をつくります。
- ★準備が出来たら、できるだけそっとしておいてください。
- ★ケースの周囲を黒い紙で覆うと、壁ぎわで蛹になることがあります。

★5月の終わりから7月初め頃には成虫となります。

幼虫(ようちゅう)を育てるポイントまとめ

今日これから、私が話すことは今までの経験の中で体験したことを説明します。
多くの飼育者(昆虫採集家)が、それぞれよかったこと、わるかったことをくりかえしながら育てています。それを参考に自分なりに考えながら育てています。したがって完全な育て方の参考書ではありません。育てる環境などにより、大きくかわるためこれでなければだめですよということはありません。

どうか、参考として聞いて下さい、夏には、成虫になるよう世話をして下さいね。

ただ、以下の点は飼育者のみなさまが一致している点です。

- ① 飼育ケースはなるべく大きなものを。
- ② 家の中でかう場合は、暑くもなく寒くはないところで。
- ③ 昆虫マット(土)は乾かないように、たまにきりふきをして下さい。
- ④ 昆虫マット(土)は、市販のものを。冬は売っていない場合があるので、ホームセンター等で、腐葉土をお買い求め下さい。(店員さんに、消毒していないものと言って下さい)
- ⑤ 昆虫をさわるときは、直接 手をふれないように。スプーンとか軍手がいいです。
- ⑥ フンが増えたら、取り除いてあたらしい土を足して下さい。(1ヶ月に一度程度で十分)
- ⑦ あまり、幼虫をさわらないようにしてね。

以上の点に注意して、夏には成虫を生ませてね